

異常時に発生する問題を 教訓化出来ない会社が問題だ！

11月6日、組合と支社との間で「9月5日、のぞみ2号の運転士操配漏れによる列車遅延について」「9月16日、ひかり520号の車掌操配漏れによる列車運休について」の申し入れによる業務委員会が開催されました。

会社は、のぞみ2号の件では、前日の（台風17号による）輸送障害によって「関係箇所での情報連携が不十分であった」「エアポケットみたいなもの」が操配漏れの原因である。

また、ひかり520号の件では、前日の（台風18号）輸送障害によって「運転士の錯誤」「基本動作の知照もれ」が車掌不在で発車した原因である。と回答しました。

***■△皆さん！このような会社回答を聞いてどう感じますか。**

会社の回答は、社員の問題にして会社として反省する姿勢は全然感じられません。台風による輸送障害が枕ことばになってる以上、今後も発生の可能性もありますし、台風以外の異常時でも発生する事柄であることがはっきりしました。

ひとたび乗務員がミスをすれば、掲示が出され責任追及の日勤教育や再教育とした試験の強要が行われます。さらに、ミスをした原因とは関係のない反省と対策を自らに課せられて、職場では他社員の見せしめとなるのです。

しかし、「関係箇所の情報連携が不十分」というのは明らかに管理者のことを言っているのですが、職場では社員へ周知する掲示もありませんしどの管理者が反省したのかもサッパリ分かりません。

また、（ひかり520号の）「運転士の錯誤」にも列車遅延・増延をしてはいけないような絶対的な過度な使命感を運転士が感じていることが明らかになったのではないのでしょうか。こういった事例が発生する可能性を会社が把握しているなら、運転士の立場に立った指令伝達を考慮することが会社の使命だと言えます。

**原因は「異常時です」を繰り返す会社！
これでは安心して乗務出来ない！**